

就職支援コーディネーターの配置の目的について

本校生徒は高等部卒業後、一般就労や福祉的就労をして社会参加する。特別支援学校は一般の高等学校とは異なり、**職場開拓**が必要である。また、卒業後に安心して働き続けるためには、本人に合った**ジョブマッチング**など就労後の**職場定着支援**が必要となってくる。そこで、進路指導主事と連携し、**一人一人の障がいに応じた就労支援の充実及び附属学校として地域の進路・就労支援のセンターの機能を発揮**することを目的としている。

就職支援コーディネーターの主な業務

①企業開拓とデータ管理

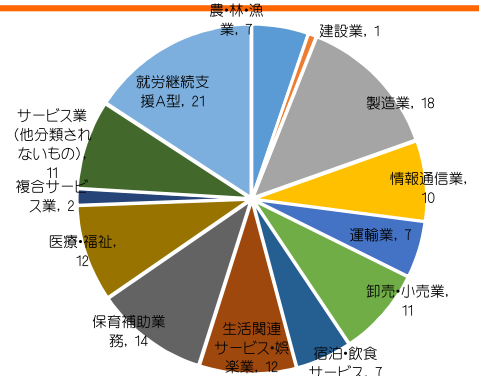
生徒一人一人に合った職場を開拓した。開拓した情報は集めた資料(パンフレット、チラシ等)と一緒に管理を行い、必要な時に活用できるように共有のフォルダにデータを蓄積していく。

開拓企業数:109件 就労継続支援A型:21件 合計:133件
(平成29年2月現在)

実習受け入れ企業管理表1

番号	企業名	業種	住所	実習受け入れ	就業開始	就業終了	就業日数	就業時間	備考
1	株式会社...	製造業	...	○	○	○	...	...	...
2	株式会社...	製造業	...	○	○	○	...	...	...
3	株式会社...	製造業	...	○	○	○	...	...	...
4	株式会社...	製造業	...	○	○	○	...	...	...
5	株式会社...	製造業	...	○	○	○	...	...	...
6	株式会社...	製造業	...	○	○	○	...	...	...
7	株式会社...	製造業	...	○	○	○	...	...	...
8	株式会社...	製造業	...	○	○	○	...	...	...
9	株式会社...	製造業	...	○	○	○	...	...	...

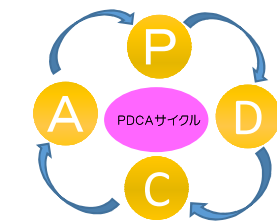
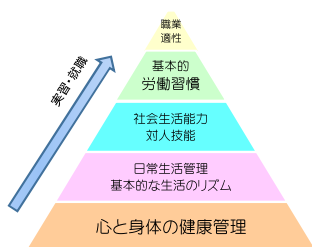
実習受け入れ企業管理表は企業情報のほかに、「実習受入」「(現)実習」「(現)雇用」「雇用見込み」に◎○△×で現在の状況を確認することができる。備考欄には特記事項を記載する。



②附特就労アセスメントシート(試案)の開発・改善(総合記録表・評価表)

移行支援事業所等での就労アセスメントを参考に、学校で活用できるアセスメントシートを作成した。この附特就労アセスメントシート(試案)は「就職できる」「就職できない」を明確にするものではなく、**生徒の強み(Strength)を見つけ、芽生え(Emerging)を最大限に引き出し、必要な配慮(Accommodation)を明確にする**。その情報を使って円滑に進路先、支援機関と情報共有を行う事を目的としている。

職業準備性ピラミッド



PDCAサイクル～計画・実行・評価・改善～

附特就労アセスメントシート:評価表(試案)

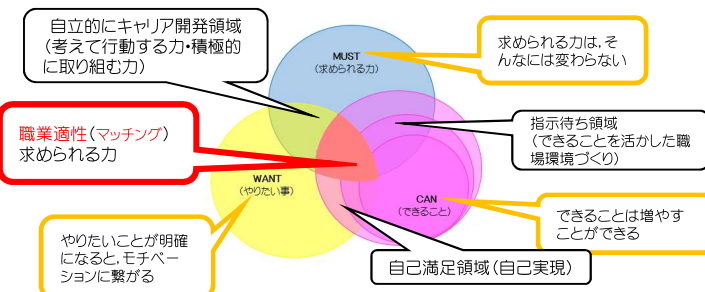
4段階評価:

- ①できない(0～10%)
 - ②どちらかと言えばできない(10～50%)
 - ③どちらかと言えばできる(50～90%)
 - ④できる(90～100%)
- できることとできない事を明確にする

備考:

気づいた事などの詳細を記載

キャリアビジョン～人生・仕事において自分自身のなりたい姿を指す3つのポイント～



これらの情報を具体的に

附特就労アセスメントシート(評価表) 事例

学 校 名	山形県立山形高等学校	姓 名	山形県立山形高等学校
年 級	2年	年 齢	17歳
障 害	知的障害	障 害	知的障害
アセスメント期間	平成29年4月1日～10月31日	アセスメント期間	平成29年4月1日～10月31日
アセスメント実施者	山形県立山形高等学校	アセスメント実施者	山形県立山形高等学校

アセスメント領域:
インターンシップ期間中に各領域で変化を記録し、手立てを考える

支援の方向性(SEA):

- ・Strength(強み)
 - ・Emerging(芽生え)
 - ・Accommodation(配慮)
- どこでつまづき、どんな支援が必要なのかを見極める

③地域との顔の見えるネットワーク作り

○熊本市障がい者自立支援協議会

就労部会の企画運営

○すすかけイブニングセミナー

の企画・運営

＜熊本市障がい者自立支援協議会就労部会の取り組み＞

☆広報システム班

- ・障がい者就業支援のための新たなシステム「施設ブラグ」の普及活動 等

☆企業巻き込み班

- ・障がいのある方の就職事例集「しごといく作成」

・就労フェアセミナー企画運営(2月10日) 等

☆当事者対話班(チームふらっと)

- ・当事者、支援者が集まり対話する「たふらっと」の開催

・就労フェアでの「当事者との対話型セミナー」の開催 等

☆福祉施設班

- ・就労フェアでの商談会の開催

・熊本市や「はーとアラウンドくまもと」の協働による研修会や販売会の開催



発達障がいに関するシリーズ研修を開催する。研修のテーマに合わせた講師との打ち合わせを行った。研修時の意見交換に参加し、積極的に参加された方々と情報交換を行った。



しごといく Vol.5



成果と課題

1. 企業開拓による

理解啓発について

企業は開拓が「きっかけ作り」であり、企業の疑問や不安を解消し、「これならできる」という部分を見つけることで検討する企業が増える。生徒たちの多様なニーズに叶う就職先の確保へとつながった。

2. 附特就労アセスメントシート(試案)～合理的配慮のポイント～

それぞれが持つ特性を整理し、一人一人に合った支援をすることが出来た。企業の理解を深め合理的配慮を求めることができ、適切なジョブマッチングが可能となった。

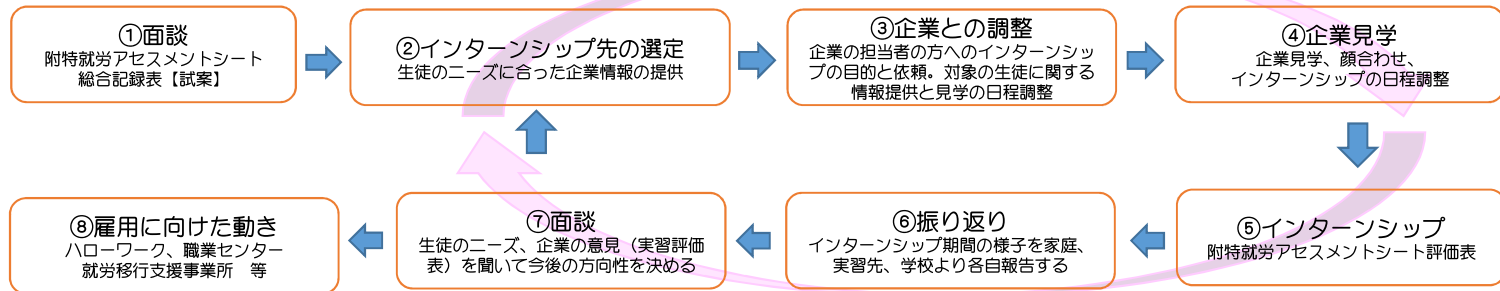
3. 地域と顔の見える

ネットワーク作りについて

地域との連携した活動により多くの支援機関との信頼関係の形成につながった。企業・行政・福祉とつながることができ、情報交換など様々な連携をすることが出来た。また、本校の取り組みをアピールする機会にもなった。

今後は企業開拓の件数を増やし、関係機関と情報共有を行い、連携した就労支援を行ってきたい。また、開発したアセスメントの事例を増やし、活用しやすいツールへ改善していきたい。

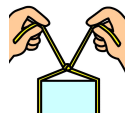
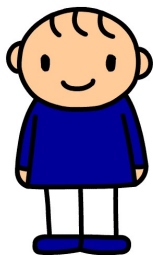
インターンシップの流れ



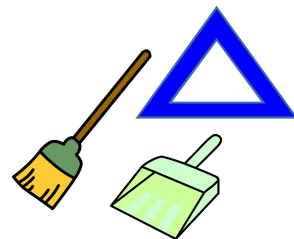
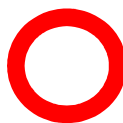
事例1 Aくん 中度知的障がい

< Aくん情報 >

- いつも明るく元気で、楽しいことが好き
- 声とリアクションが大きい
- 手先を使った作業は得意である
- 清掃はあまり得意ではない
- 臨機応変な対応をもとめられるのは少し苦手
- 予期せぬ出来事等に動揺する
- 人と関わることが好き
- 見通しがないことが少し苦手
- バスを利用して通うことができる (乗換は不可)



手先を使った作業が得意



掃除はあまり得意ではない

附特就労アセスメントシート (評価表) から

1、仕事の覚え方に関する支援

アセスメント内容		アセスメント項目	初回	S	E	A	2回目	3回目	備考
作業能力	巧緻性	39. 手先が器用である	4	●			4		自分でメモをとり、積極的に取り組む様子が見られた。実地の作業によっては時間を短縮することが出来ると思われた。
	正確性	40. 正確に丁寧に作業をすることができる	4	●			4		
	効率性	41. 慣れると作業スピードが上がる	3		●		3		
	持続性	42. 時間を見て行動することができる	2			●			
作業態度	集中力	43. 工夫しながら作業ができる	2				2		
	努力	44. 1日に6時間以上作業継続する気力がある	4	●			4		
	責任感	45. 1日に6時間以上作業を継続する体力がある	4	●			4		
	理解力	46. 指示の理解	2			●			メモを取る時間をつくらせよう。
生活能力	計画性	49. 自分から積極的に作業できる	3				3		
	責任感	50. 与えられた仕事を最後までやり遂げることができる	3				3		
	理解力	51. 時間、いっしょに仕事をする事ができる	3				3		
	生活能力	52. 作業の指示が理解できる	2			●			
生活能力	理解力	53. 作業の手順や工程が理解できる	2				3		
	生活能力	54. 作業の手順や工程が理解できる	2				3		
	生活能力	55. 作業の手順や工程が理解できる	2				3		
	生活能力	56. 作業の手順や工程が理解できる	2				3		

「スケジュールがはっきりしている(見通しがある)と安心して働くことが出来る。」ことを伝えた。

A君は相手の言葉を復唱し、メモをとる事で作業の工程を理解することができる。
指示を理解するために、メモをとる時間を作ってもらったり、オリジナルマニュアルの作成の提案を行った。

朝からの打ち合わせで仕事の内容を確認したり、スケジュールを確認することで安心して業務を遂行することができた。



※職場の人と一緒に作った持ち運び可能なマニュアル

point1

自分の言葉、自分の文字で書いたマニュアルの作成

Point2

職場の人と一緒に作る正確なマニュアル

Point3

いつでも確認ができる持ち運び可能なマニュアル

合理的配慮 (point1・point2・point3) をいただき、職場の人と一緒に作ったマニュアルを活用することにより得意ではない清掃の仕事を楽しく取り組めるようになった。積極的な姿勢が評価され、仕事の幅も広がっていくこととなった。

休憩時間の過ごし方について

アセスメント内容		アセスメント項目	初回	S	E	A	2回目	3回目	備考
余暇活動における	計画	32. 休みの計画を立てることができる	2						休日はするが、予定がない時は家でゲームをしている。計画を立てて外に出る機会を作っている。
		33. 将来の目標を持っている	3				3		
		34. 疲れを隠さないように余暇を過ごすことができる	4	●			4		
	参加	35. 地域・学校のイベントに参加することができる	4	●			4		
		36. 友達とでかたりできる	4	●			4		
		37. 趣味をもっている	3				3		

休憩時間に休憩室で一人で時計を見ながら、座って過ごす姿に気付かれ、担当者から学校に相談された。(休み時間の過ごし方について) 職員の方の休憩時間の過ごし方を確認し、同じ場所での休憩をとらせていただくようにアドバイスを行った。

point1

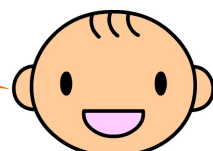
ソファやテレビがある場所(リビング)で他の職員と一緒に休憩をとる

point2

他の部屋の職員と一緒にいることが増え、名前を覚える機会にもなった。

楽しく仕事をする事が出来た。
利用者の方や職員さんに「褒められた」ことが嬉しかった。ここで頑張りたい!!!

※A君は4月からインターンシップ先で働くことが決まっています。



合理的配慮 (point1・point2) をいただき、休憩時間もゆっくりと過ごせるようになった。また、関わりが少なかった職員とも会話をする機会が増え積極的に職員の名前を覚えることが出来た。